

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

羽曳野市立高鷲南小学校

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象 第6学年児童（84名）

3 調査の実施日 令和6年4月18日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査：国語・算数

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（2）学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

5 調査結果の取扱い

- 調査結果の分析・考察を踏まえ、教育指導等の改善に向けて計画的に取り組めます。
- 家庭や地域とも成果と課題を共有し、改善につなげていくよう努めます。
- 調査結果は中学校区でも共有し、共通で取組める内容について検討・実践してまいります。
- 以下の点についてご理解ください。

調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

（「令和6年度全国学力・学習状況調査実施要領」より）

6 調査結果の考察

(1) 各教科調査結果・児童質問紙調査(教科に関する項目)から

国語について

成 果

- 「目的や内容に応じて、伝え合う内容を検討することができるかどうか」という趣旨の出題において、全国平均を上回っている。
- 児童質問紙調査においても、「国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか」の質問に対して、肯定的回答が全国平均を上回っている。国語の授業をはじめ、日々の学習の中で調べたことを発表する活動を各学年で取組んだ成果であると考えられる。

課 題

- ▲思考力・判断力・表現力の内容を問われる問題の正答率が低い。
- ▲「書くこと」や記述式の問題に課題が大きいことが近年続いている。記述式問題は途中であきらめる傾向があり、無解答率が高い。質問紙調査でも、「書く問題は全く解答しなかった」と答えた割合が全国平均と比べて高い。

算数について

成 果

- 知識・技能を観点とする問題で「数と計算」の領域では全国平均を上回る問題が複数あった。本校では、朝の学習の時間で算数タイムを全学年で取組んでいる成果であると考えられる。
- 児童質問紙調査では「算数の授業はよくわかりますか」「算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」などの項目において肯定的回答が全国平均を上回っている。

課 題

- ▲「変化と関係」の領域の問題で全国平均を下回っている問題が複数あった。特に「速さ」に関する問題における正答率が低い。
- ▲無解答率が全国・大阪府平均に比べて高い傾向にある。示された問題を粘り強く読み取ることに課題があり、質問紙調査で「書く問題で解答しなかったり、解答を書くこと途中であきらめたりしたものがあつた」と答えた割合が高い。

(2) 児童質問紙調査結果から

成 果

- 毎日朝ごはんを食べている割合は9割以上である。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問において、肯定的回答が全国平均を上回っている。
- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「5年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ってきましたか」の質問で肯定的回答が全国平均を上回っている。

課 題

- ▲「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に「全くしない」と答えた児童の割合が高い。
- ▲携帯電話・スマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に対しての肯定的回答が全国平均より高いのに対して、「1日当たりどのくらいテレビゲーム/スマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか」の質問に対して、「2時間以上」と答えた割合が全国平均より高い。
- ▲「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」といった質問に対する肯定的回答の割合が低い。
- ▲いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問において、肯定的回答が全国平均より少ない。



本校公式キャラクター
「たかにゃん」

これらの課題克服に向けて



1 自己肯定感・非認知能力を高めるために

- (1) 教育活動全般を通して、自己肯定感を高めるようにする。そのために、教職員は子どもの気持ちに寄り添い、丁寧な言葉づかい、プラスの言葉かけに一層努める。
- (2) 会議や研修を通して子ども理解を一層すすめるとともに、相談ポストの設置やカウンセリング週間の定期的実施など、学校組織全体での取組みを継続する。
- (3) 課題を最後までやり切ることを徹底するよう指導する。粘り強く課題に向き合う過程の大切さを価値づける。

2 学習習慣を高めるために

- (1) 家庭学習の手引きを活用した指導を継続し、3年生以上では自主学習を推進する。土日曜日を含めて学年に応じた時間を学習する習慣が身に付くよう指導を継続し、保護者への啓発を継続する。
- (2) ICT を用いた家庭学習を充実させていく。学習アプリ(ドリルパーク)などの計画的・組織的な活用に加え、クラスルームを通じた資料や課題の配信などを通じて、子どもたちが自主的に調べたり、学習を振り返ったりする機会を増やしていく。また、タブレット端末の使用のしかたについても、適宜指導していく。

3 書く力・ことばの力を高めるために

- (1) 「語彙力の育成」をめざし、日々の授業の中で語彙を増やし、書く力を伸ばしていくことに、学校全体で取り組む。
- (2) 読み取ったことを短いことば・文で要約する機会を多く設ける。
- (3) 各教科の授業では、「めあて」「見通し」「考える」「深める」「まとめる」など、流れのある学習活動を意識する。特に、まとめでは、自分のことばで授業を振り返りまとめる活動を継続していく。

4 算数的思考力を高めるために

- (1) 基本的な公式を活用することや計算力を高めるために、朝の時間に行う「算数タイム」を一層充実させる。学習アプリ(ドリルパーク)を計画的・組織的に活用し、個別最適化した学びにつなげていく。
- (2) 文章問題では、問題文を根気よく読む習慣づけを行う。自ら読み取った題意を式や絵で表し、見通しを持つことを一層重視する。
- (3) 授業は「めあて」「見通し」「考える」「深める」「まとめ」など流れのある学習展開を意識する。その際、具体物を使ったり、デジタル教科書など ICT 環境を有効活用したりすることで、ユニバーサルな分かりやすい授業をめざす。

保護者・地域のみなさまへのお願い

- 1 基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）を大切にしましょう！
- 2 1日1回は学習する習慣を大切にしましょう！学習する時間は学年×10分程度をめやすにしましょう。（例：小学4年生=40分程度）
- 3 読書する習慣を大切にしましょう！
- 4 ゲームやスマートフォンの長時間使用を控えましょう！
- 5 家庭での会話を大切にしましょう！（学校のこと、読書のこと、ニュースのことなど社会での話題など）



(参考資料①) [羽曳野市の結果概要](#)



(参考資料②) [大阪府の結果概要](#)

